

1. ハザード評価

(1) 地震動

【L2】理論上最大クラス

【L1】過去最大クラス

- 震度
- 震度 7
 - 震度 6 強
 - 震度 6 弱
 - 震度 5 強
 - 震度 5 弱
 - 震度 4
 - 震度 3 以下

<震度別面積割合>
(参考) 総面積 = 15.7km²

	【L2】理論上最大クラス		【L1】過去最大クラス	
	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合
7	0.7	5%	0.0	0%
6 強	15.0	96%	0.0	0%
6 弱	0.0	0%	15.7	100%
5 強	0.0	0%	0.0	0%
5 弱	0.0	0%	0.0	0%

※震度別面積の合計は、四捨五入により総面積と一致しない場合があります。

(2) 液状化

【L2】理論上最大クラス

【L1】過去最大クラス

- 液状化危険度
- 極めて高い
 - 高い
 - 低い
 - 極めて低い
 - 計算対象層なし
 - 計算対象外

<液状化危険度別面積割合>
(参考) 総面積 = 15.7 km²

	【L2】理論上最大クラス		【L1】過去最大クラス	
	面積 (km ²)	割合	面積 (km ²)	割合
極めて高い	12.1	77%	11.8	75%
高い	0.0	0%	0.2	2%
低い	0.0	0%	0.0	0%
極めて低い	0.0	0%	0.0	0%
計算対象層なし	3.7	23%	3.7	23%
計算対象外				

※液状化危険度別面積の合計は、四捨五入により総面積と一致しない場合があります。

1. ハザード評価

(3) 沿岸最大津波高

L2	L1
4m	3m

(4) 沿岸津波到達時間

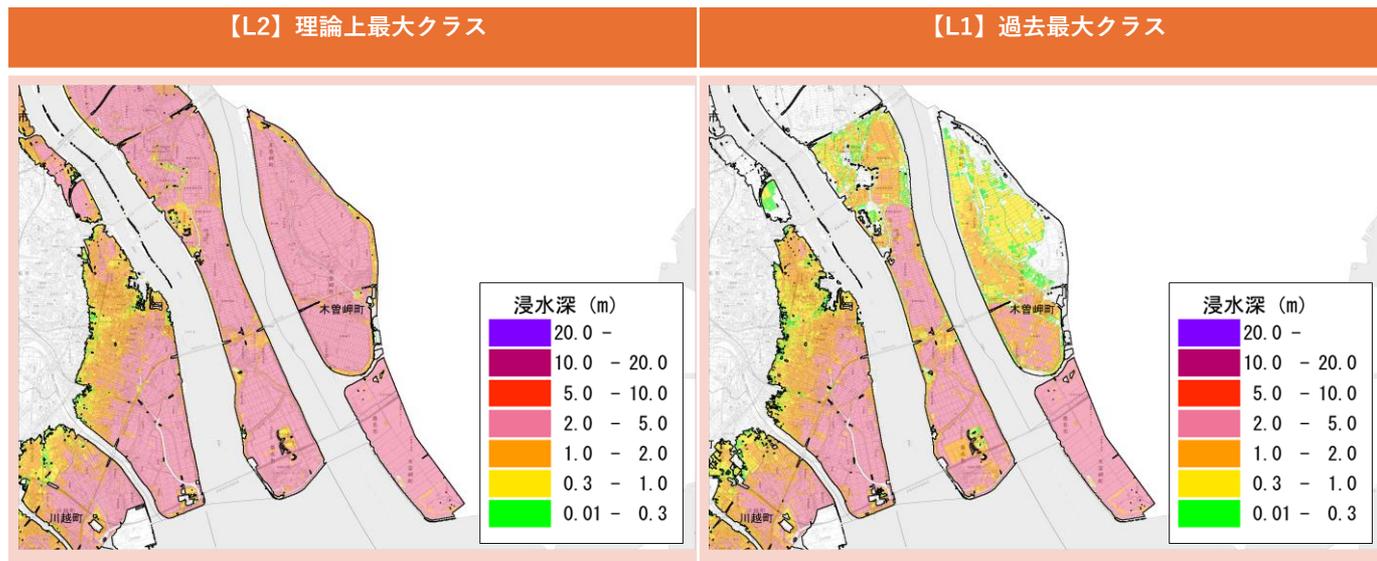
L2	L1
84分	94分

※沿岸で1mの水位変動が発生するまでの最短の時間

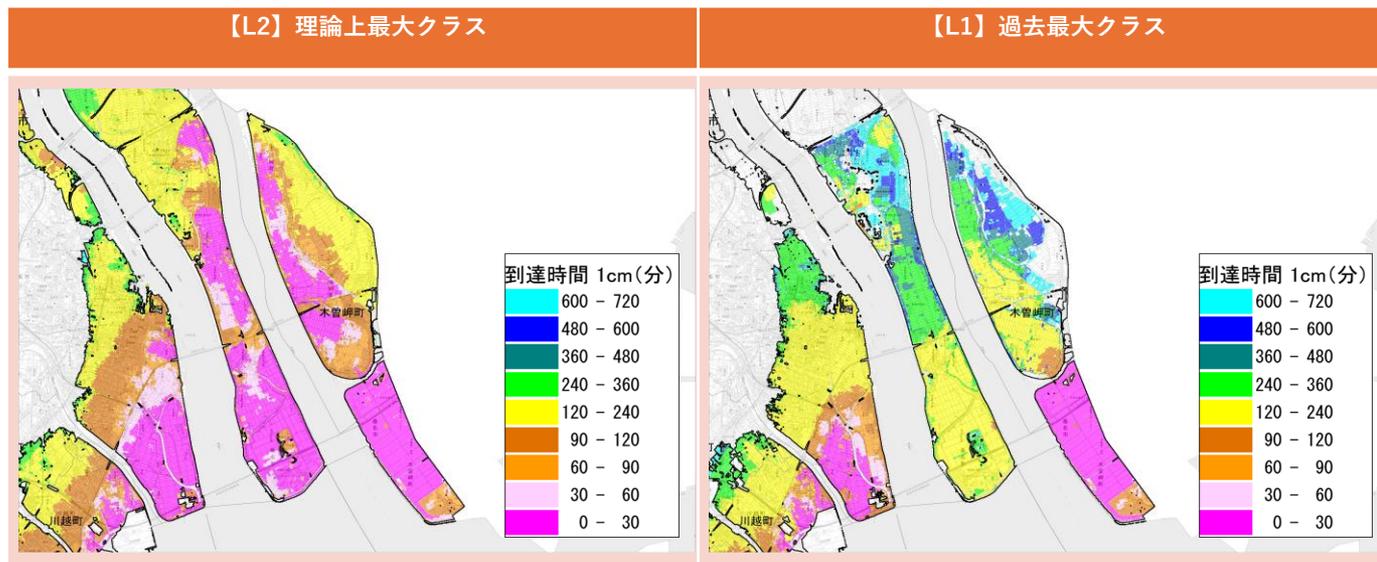
(5) 津波浸水面積

L2	L1
1,181ha	915ha

(6) 津波浸水深



(7) 津波浸水深到達時間 ※陸上で1cmの浸水が発生するまでの時間



2. リスク評価

(1) 人的被害

※L2の死者数は津波ケース⑨の推計結果

※季節・時間帯：冬・深夜

※津波からの早期避難者比率が低い場合

定量評価項目	L2	L1
死者数（人）	約600	約10
うち建物倒壊等	約30	-
うち津波	約600	約10
うち急傾斜地崩壊等	-	-
うち火災	-	-
うちブロック塀 ・自動販売機転倒 および屋外落下物	-	-
重傷者数（人）	約70	約10
軽傷者数（人）	約200	約40
建物倒壊等による 自力脱出困難者数（人）	約100	約10
津波被害による 要救助者数（人）	約30	-
津波被害による 要搜索者数（人）	約500	約10

(2) 建物被害

※L2の全壊・焼失棟数は津波ケース⑦の推計結果

※季節・時間帯：冬・夕方

定量評価項目	L2	L1
全壊・焼失棟数（棟）	約2,700	約300
うち揺れ	約700	約50
うち液状化	約100	約100
うち津波	約1,800	約90
うち急傾斜地	-	-
うち火災	約10	-
半壊棟数（棟）	約700	約1,700
うち揺れ	約200	約200
うち液状化	約200	約800
うち津波	約300	約700
うち急傾斜地	-	-
ブロック塀等の 転倒数（件）	約100	約30
自動販売機の 転倒数（件）	-	-
屋外落下物の 発生数（件）	約200	-

(3) 火災被害

※季節・時間帯：冬・夕方

定量評価項目	L2	L1
炎上出火件数（件）	-	-
残火災件数（件）	-	-
津波火災発生件数（件）	-	-

概観（理論上最大クラス）

【ハザード評価】

広い範囲で震度6強以上となり、平野部では全域で液状化が発生するとともに、海岸堤防が地震時に沈下することで、低い土地では地震発生直後から津波の浸水が生じます。

【リスク評価】

地震発災直後からの浸水や、その後の津波からの逃げ遅れにより死者の9割以上が津波で亡くなり、建物も町全体の約半数が津波で全壊します。また、液状化の発生によって津波からの避難に影響が生じます。

※「-」：わずか（5未満）

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。